

スウェーデンだより

酪試 多田昌男技師から

10月23日からいよいよ仕事にとりかかり、23日は農林省で豚の後代検定の方法について聞きました。丁度伊藤忠商事の佐野氏がランドレースを100頭余り買付しているのと合流したため、11月2日まで休みなしで共に勉強し、通訳をしてもらったので大助かりでした。

23日夜急行で6時間程かかる、国の南西部、コペンハーゲンの向い東にあるMALMEA^{マルメ}に行き、ここを起点に南部の豚関係の機関及び繁殖養豚家を見てまわりました。

ランドレス繁殖種豚農家は国内に200戸、大ヨークシャー50戸位です。スウェーデンの豚は200万頭で、このうち75%がランドレス、25%が大ヨークシャーです。一般にストックホルム以南に多く飼われておりますが、特に中軀の延びと、後軀の充実はこれからの肉利用面から見て大いに期待できるのではないかと思います。もう2～3年前に輸入されていたならばと考えられます。25日は日本向の汽車積出しを見ました。日本の貨車の2倍位の貨車に畳1丈敷以上もある箱を8箱入れ、1箱に1～2頭入れていました。7週間位で日本に到着するそうです。

26日は農協機構の家畜教育所へ行き、豚の管理、仔豚の検査等について聞き、午後から後代検定所を見ました。検定所は国内に6ヶ所あって、このうち4ヶ所が大きく私の見たものは大きい方で、棟に32

房、3棟で96房設けられており、各房に検定豚4頭が入っています。ここへ農家から送られる豚は10頭の平均体重に近い仔豚を4頭、18kg程度のもので、検定用の飼料は脱脂乳と配合飼料に鉱物質およびビタミン類を与えております。水は次の式で与えています。

配合飼料×2.5＝スキンミルク+水

例えば配合飼料を1郡4頭に4kg、スキンミルク6kgを1日に与えたとすれば、水は4kg与えればよいこととなります。

1日1回混合して朝と午後2時頃の2回に分けて与えており、90kg以上に達した豚からと殺して枝肉検定されます。と殺場へ送られる豚は1年に1,000グループ、4,000頭です。この仔豚の検定成績が母豚の価値を現わすわけです。

27日から11月2日にわたり、と殺場枝肉検定要領、販売組織、飼養管理機構、と殺風景及び加工場、豚舎建設技術者、衛生管理機構に行つて説明を受け乍ら、繁殖養豚家を見ました。毎日朝8時から夜8時まで、多い時には1日に400km以上も自動車に乗っています。丁度岡山県と兵庫県をかけずり廻っている位と思います。夜8時から10時まで夕食、床へ入るのは毎日11時です。外人の夕食の長いのには困ります。(後略)

36、11、4 MALMEAはて

お知らせ

第3回岡山県枝肉共進会 大阪市で開催の予定

今年で第3回目を迎える県枝肉共進会は、来る1月29日、30両日にわたり大阪市西成区の大阪市営枝肉卸売市場で開催される予定、この共進会は去過2回県主催で同市場で開催され、岡山産肉牛を阪神消費市場に紹介して好評を博してきたが、今回から県総合畜連、県経済連の共催で開かれることになり、開催計画はつぎのとおり。

- 1、出品頭数 30頭
- 2、資 格 岡山県産の去勢牛
生後36ヵ月未満のもので出品者が3ヵ月以上飼育したもの
- 3、選 抜 各農林事務所および県総合畜連